



EU・北米における共生意識レベルを踏まえた企業活動の実施へ

鳥山畜産食品株式会社 有限会社鳥山牧場

渋川市
昭和村



- ▶ 代表者: 鳥山 真
- ▶ 設立年月日: 1961年9月9日
- ▶ 資本金: 3,000万円
- ▶ 従業員数: 畜産食品45名、牧場14名
- ▶ 住所: 渋川市渋川1137-12
- ▶ TEL: 0279-24-1147
- ▶ Mail: info@akagi-beef.jp
- ▶ URL: http://www.akagi-beef.jp

当社HPへは
こちらから→



企業紹介

消費者に美味しく安全な牛肉をお届けするため、肉牛生産（鳥山牧場）と食肉加工販売（鳥山畜産食品）はグループ内の一貫事業に取り組んでいます。国内は赤城牛・赤城和牛ブランドで、海外ではTORIYAMA UMAMI WAGYUブランドで販売を行っています。



経緯・背景

鳥山グループは、約80年にわたり、肉牛生産、食肉加工販売事業を群馬県内を拠点として展開してきました。

牛肉輸出ビジネスに取り組みはじめた8年前から、海外マーケット、特にEUや北米においては環境面や社会性への配慮意識がとて高いと感じ取り、日本の感覚による事業内容・経営意識では、世界の食品流通の土俵に上がれないことを痛感しました。

以後、環境・地域・牛・ヒトの共生を意識した事業内容へ転換することを試みています。

具体的な取組

肉牛生産段階では、地域と動物、働くスタッフのバランスを重視した経営を意識し、その結果として農場HACCPおよびJ-GAPの認証を取得しています。

食肉加工段階では、地域との共生および食の安全を向上させるための活動に取り組み、他生産者と連動した赤城牛ブランドのプロモーション活用を実施し、またJFS-Bの認証を取得しています。醤油や蒟蒻等県内食品生産メーカーと連携し、群馬県の「すき焼き応援県プロジェクト」を活用した、すき焼きをテーマとした海外プロモーション活動を実施しています。各メーカーで発生する酒粕や醤油粕を肉牛生産で活用するプロジェクトを計画中です。

成果・効果

肉牛生産の課題となっている、ふん尿・堆肥の善循環を目指して、4種の取組を推進しています。

- 1 昭和村を中心とした耕種農家への堆肥販売推進
- 2 群馬県東毛エリアを中心に、家畜用飼料米生産農家に堆肥を販売し、その農家から家畜用飼料米を購入する循環を推進
- 3 新潟県上越エリアに堆肥半製品を販売し、もみ殻と堆肥を原料とした肥料を生産してもらいます。その肥料を上越エリアでの稲作で活用し、収穫時に発生した稲藁を飼料として購入する循環を構築中
- 4 肉牛牧場、近隣稲作農家、食肉加工販売会社、県内レストランやショップが連携し、堆肥、飼料、肉、米の循環を行っています。



ふん尿、堆肥処理の更なる改善を試み、群馬大学、群馬高専、有機物処理攪拌機メーカーと連携を行いました。群馬高専とは、使用する農家にとってあるべき堆肥とは何かという視点に基づき、完成品の成分や形状を意識した発酵処理研究を行っています。群馬大学とは、堆肥を燃料とした発電を研究し、食肉加工工場での使用を実現するための調査を行っています。

当社にとってのSDGsと、その展望

国内生産農畜産物の輸出額を2030年までに5兆円（=2020年の5倍）とする日本の政策を実現するためには、食品生産流通工程におけるSDGsへの配慮はより深く実施していく必要があります。海外事例を研究し、未来思考でのあるべき生産流通スタイルを研究、追求し続けていきます。

また、世界視野で考えると人口増加と食料供給のバランスにおいては将来に不安があります。培養した牛肉を生産し、より生産性の高い良質な動物性タンパク質を提供することは、将来を見据えると必要なことだと思っています。

JUST社（アメリカ、サンフランシスコ）が実施する培養肉開発のプロジェクトメンバーとして3年前から参画しており、培養肉の生産から食品流通現場での認知等課題対応を行っています。従来スタイルに捕らわれることなく、世界の食へのニーズ変化に対応していきます。